

スピリチュアル・ライフと聖霊

□「スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）」に関する学びは8部構成

第一部 聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か（定義）

第二部 スピリチュアル・ライフと 信者の生活ルール

第三部 スピリチュアル・ライフと 聖霊

第四部 スピリチュアル・ライフと 交わり

第五部 スピリチュアル・ライフと 弟子

第六部 スピリチュアル・ライフと 倫理

第七部 スピリチュアル・ライフと 神の導き

第八部 スピリチュアル・ライフと 霊的戦い

□第三部「スピリチュアル・ライフと聖霊」のアウトライン

第一章 聖霊の働きについて

1. 新生
2. 内住
3. 聖霊のバプテスマ
4. 満たし
5. 照明

第二章 聖霊との関係における3つの個別テーマ

1. 聖霊に対する罪
2. メシアに結び合わされること
3. 神のことばとスピリチュアル・ライフ

第一章 聖霊の働きについて

□概要

1. 2021年10月10日のテーマ「聖書が示すスピリチュアル・ライフとは何か」において、スピリチュアル・ライフ（霊的な生き方）には、3つの要素が必要であると学んだ。

3つの要素とは、新生、聖霊、時間である。

- (1) 新生・・・人が聖霊によって新しく生まれることである。人が信者になる瞬間である。スピリチュアル・ライフは、ここから始まる。
 - (2) 聖霊・・・信者に霊的な生き方をするための力を与えるのは、聖霊である。聖霊が信者を助ける手段は5つある。信者を教える。信者を導く。信者に救いの保証を与える。信者のために祈る。地域教会を建て上げるのに必要な霊的な賜物を信者に与える。
 - (3) 時間・・・信者が新生してから霊的に大人になるまでには、時間がかかる。信者になってすぐ「霊的な人」（I コリ 3：1）になれるわけではない。成長のためには時間が必要である。
2. 今回からのテーマ「スピリチュアル・ライフと聖霊」においては、スピリチュアル・ライフに関する聖霊の働き【使命、役割といった意味で】を学ぶ。聖霊の働きは、全部で5つある。新生、内住、聖霊のバプテスマ、満たし、照明である。
 - (1) **新生**・・・メシアを信頼する人に永遠のいのちを注入し、霊的に誕生させる働きである。

【補足】人をこの世から取り分けて（＝聖別して）、その人がメシアを信頼する信仰を持つことができるようにする予備的働きもまた、聖霊の働きである（←IIテサ 2：13「御霊による聖別」）。

- (2) **内住**・・・聖霊が内住する領域は、3つある。①信者個人の中に、②地域教会の中、③普遍的教会の中に、聖霊は住まわれる。聖霊が信者の中に入ることすら旧約時代では稀であったが、新約時代においては、すべての信者の中に聖霊が住んでくださる。

- (3) **聖霊のパプテスマ**・・・この働きは、新生と同時に1回限り、起きる。信者をメシアの死と葬りと復活に結び合わせ、メシアと一つにする働きである。これにより、信者は「キリストにある」という地位を受け取り、普遍的教会に属する信者となる。普遍的教会は目に見えない霊的なひとつの組織であり、「キリストのからだ、その頭はキリスト」と表現される。この働きは教会時代に特有のものであり、教会が携挙されたあとには、この働きはない。
- (4) **満たし**と**照明**・・・信者がスピリチュアル・ライフを日々生活する上で必要な働きは、この二つ。
- ① **満たし**とは、聖霊の側から言って、信者の内側を満たすということであるが、信者の側から言えば、聖霊に明け渡した歩みをするときに聖霊から受ける働きである。
- **【補足】**明け渡すという点においては、明け渡すか、明け渡していないかの、どちらかしか、ない。よって、聖霊の満たしは、「昨日は半分くらい、今日はかなり満たされて90%」といった信者の感覚的な度合で量るようなものではない。
- ② **照明**とは、書かれた神のことは、すなわち聖書に啓示された霊的な真理を信者の心の中に照らして、理解させる働きである。

□聖霊の第一の働き 新生

1. 新生とは、メシアを信頼する人に永遠のいのちを注入し、霊的に誕生させること
- (1) ガラ 6:15 **割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なのは新しい創造です。**
- (2) エペソ 4:22~24 **その教えとは、あなたがたの以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたは脱ぎ捨てること、また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。**

2. 新生とは、再び生まれること（再生）

(1) ヨハネ 3:5~6 まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

- ① 「水によって生まれる」とは、人の自然の誕生。水は男性の精液を象徴する。
- ② 御霊によって生まれるとは、聖霊によって人が霊的に誕生すること。生まれるのは二度目なので、再び生まれることでもある。
- ③ 「肉によって生まれた者は、肉です」・・・「肉」という用語が 2 回使われているが、意味は異なる。
 - 「肉によって生まれる」とは、人の自然の誕生のこと、「水によって生まれる」と同じである。
 - 他方、「肉です」とは、「罪の性質を生まれたときから持っています」という意味。こちらの「肉」は、罪の性質を指す。
- ④ 「御霊によって生まれた者は、霊です」・・・「霊」という用語がこちらも 2 回使われているが、やはり意味は異なる。
 - 「霊によって生まれる」とは、聖霊によって人が霊的に誕生すること。この「霊」は神の霊、聖霊を指す。ギリシア語原文では、頭文字が大文字になっていて、神の霊であることを明示している。日本語聖書では「御霊」と訳されているのは、そのためである。
 - 他方、「霊です」とは、「新しい性質を再生したときから持っています」という意味。こちらの「霊」は、新しい性質を指す。新しい性質は、「**神にかたどり造られた新しい人**」（エペソ 4:24）とも表現される。

(2) 人は生まれながらに罪人であり、神との正しい関係にない。二度目に生まれることにより、人は神との正しい関係になる。

3. 新生は、「霊的な人」であることの基盤。新生していない未信者は、どんなに努力したとしても、霊的な人になれない。